



北海道立大沼学園

〒 041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼 8 番地

TEL 0138-67-2014

園長 内田 智能

この4月に園長になり、あっという間に3ヶ月余りが過ぎてしまいました。着任の挨拶がすっかり遅くなりましたこととお詫び申し上げます。

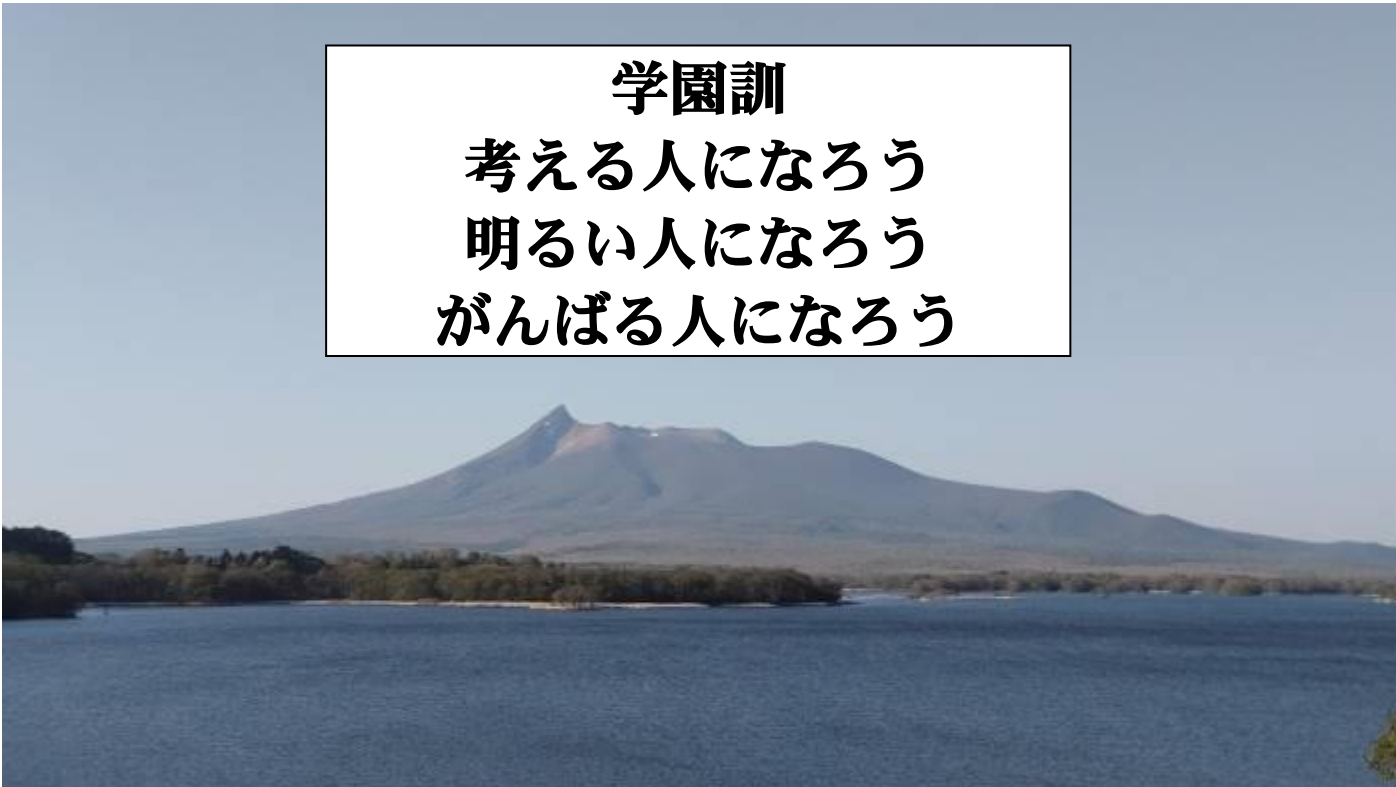
私はちょうど30年前に道職員になり、最初に勤務したのが大沼学園でした。その後、道内の児童相談所と当園を行ったり来たりし、本館職員、心理療法担当職員、自立支援課長、園長と立場を変えて、4回目の勤務になりました。

30年前と現在を比較してみますと、入所してくる子どもたちの質の変化（いわゆる「非行児」の減少、発達障がいや被虐待等の影響による適応上の困難を抱え、生活指導が必要な児童の増加）、学校教育（分校制）の導入、寮運営への交替制の導入（現在は夫婦制1寮、交替制2寮で運営）など、当園を取り巻く状況は大きく変化しています。そして、これらの変化に伴って、子ども一人一人の特性等に応じた丁寧な支援や学園職員同士の連携・情報共有、分校教員との連携・情報共有等などさまざまな工夫や配慮が必要になってきています。

一方で、今も昔も変わらず大切にしなければならないことがあるように思います。それは、職員（大人）が子どもたちの「良きモデル」になること、保護者や児童相談所をはじめとする関係機関、地域との良好な関係を保つことです。

当園には従来から、「考える人になろう 明るい人になろう がんばる人になろう」という学園訓がありました。これは、子どもたちのあるべき姿を示したのですが、学園やそこで働く職員のあり方を示したものではありませんでした。そこで、令和2年度に子どもの権利擁護、職員の責務、施設のあるべき姿からなる「理念」と当園の事業活動の柱となり、「理念」を具現化するための「基本方針」を定めました。

この「理念」は、これまで明文化されてはいませんでした。当園が大切にしてきたものであり、これからも大切にしていかなければならないものだと考えております。何分、新米の園長で、至らぬところも多々あると思いますが、この「理念」にあるように、道立施設として児童福祉を担う責務を自覚し、地域や関係機関との連携・相互理解を大切にし、当園が子ども達の健やかな成長・発達を保障する場となるように努めて参りたいと考えておりますので、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



学園訓
考える人になろう
明るい人になろう
がんばる人になろう

道南に聳える北海道駒ヶ岳と大沼全景

大沼学園の理念と基本方針

【理念】

- 児童は、健康な生活と成長の場を保障され、その権利を擁護される
- 職員は、道立施設として児童福祉を担う責務を自覚し、児童のこれまでの生育に理解と共感を持ち、生活を共にしながら支援する倫理、知識、技術を追求する
- 施設は、存立する地域との交流や関係する機関との相互の理解と連携を大切にする

【基本方針】

- 1 児童の健康な生活を保障する
- 2 児童の教育を保障する
- 3 生活、学習、作業、クラブ活動、各種行事などを通じて、児童の知・徳・体の涵養を図る
- 4 中卒児童の支援を充実させる
- 5 心理療法などの継続的な実施により、児童が抱える心理的課題の改善や内面の成長を図る
- 6 児童の権利擁護、被措置児童虐待防止について職員の認識を向上させ、環境を整備する
- 7 児童相談所など関係機関に必要とされるために、相互理解と連携に努める
- 8 地域に理解され必要とされるために、積極的な広報に努め、交流参加を図る
- 9 アフターケアを充実させ、児童の退所後を支援する

新任職員の紹介（新しく大沼学園に着任された職員）

今年度は、当学園の自立支援課に7名の職員を迎え入れました。第1号の冒頭では、各職員の自己紹介をさせていただきます。

職・氏名	前所属
自立支援課長 杉本 敦（すぎもと あつし）	岩見沢児童相談所
心理療法主査 浦本 真信（うらもと まさのぶ）	渡島総合振興局
専門主任 筑間 健太郎（ちくま けんたろう）	新採用
専門主任 岡田 茂樹（おかだ しげき）	新採用
福祉専門員 島田 直（しまだ ただし）	北海道中央児童相談所
福祉専門員 西尾 静香（にしお しずか）	新採用
福祉指導員 柴田 侑汰（しばた ゆうた）	新採用

「よろしくお祈いします」

自立支援課長 杉本 敦

この度、岩見沢児童相談所より異動してまいりました。18年ぶりの大沼学園です。建物や風景こそあまり変わっていませんが、当時40人位いた子どもは11人。非行・乱暴の子どもたちから、発達障がいやベースに持ち、二次的に問題行動を起こしてしまう子どもたちに多くは変わっていました。

子どもたちへの必要な対応も変化していましたが、家庭から離れ寂しい思いをしている子どもたちが、毎日同じような注意・指導を繰り返して受けながらも、何とか変わらないといけないと大沼学園で生活続ける姿は以前と変わりませんでした。1年前、廊下で寝ころびながら駄々をこねていた子どもが、今は駄々をこねずに頑張っています。大人はなかなか成長しませんが、子どもたちはゆっくりであっても必ず成長することを実感しました。

以前の職とは立場が変わりましたが、大沼学園で子どもたちと一緒に成長できるように、また頑張らせていただきます。よろしくお祈いいたします。

「子どもたちそれぞれの“幸せ”のために」

心理療法主査 浦本 真信

今年度より大沼学園で勤務しております、浦本真信と申します。5年前に道職員となる以前は、精神科病院で5年間心理療法士として勤務し、その後、岩手県大船渡市の小中学校で6年間東日本大震災後の心のケアを担当しておりました。

大沼学園の子どもたちや職員の皆さん、他の機関の方々と一緒に悩みながら、それぞれの「幸せ」について模索し、それに向けて微力ながら経験や知識を活かしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお祈いいたします。

「4度目の入所」

専門主任 筑間 健太郎

このたび、新規採用により大沼学園で勤務することになりました。他県の児童自立支援施設での3度ほど経験がありますが、北海道の生活も初めてで、わからないことも多いですが、周りの職員や児童に支えられ、日々の業務に当たっています。

大沼学園での生活の中で、ルールがわからなくて確認しても、正直にルールを教えてくれる場面が多々みられ、児童たちは素直な心が養われていると感じます。個に応じた支援をしていくなかで、児童と共にお互いが成長できたらいいと考えています。よろしくお祈いします。

「転職してきました、よろしくお願い致します」

専門主任 岡田 茂樹

2年間の警察官勤務を経て、今年度から大沼学園でお世話になっております。警察官として勤務していたころ、人事交流で札幌市児童相談所に2年間派遣になり、虐待等の児童福祉に携わりました。その経験がきっかけで、今後は「治安維持より子どもの未来」と思い、転職することを決意しました。

これまでは犯人逮捕が仕事でしたが、今は課題を抱えた子どもが社会に戻れるよう指導する「子どもの未来がかかった」仕事で、とてもやりがいを感じています。また、各人の特性を踏まえた対応に苦慮することが多々ありながらも、少なからず子どもの進歩を感じることもあり、勉強と発見の毎日を送っています。

日々子どもと関わりながら自己研鑽を重ね、子どもの力になれるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

「初めての異動」

福祉専門員 島田 直

前職は単科の精神科で臨床心理士として勤務していました。そこから社会人枠で北海道職員となり児童相談所で勤務したのち、今現在の大沼学園での勤務となりました。

子どもと常時関わっていく職場であるため子どもが好きな方には良い環境かと思えます。日々、一緒に過ごす中で少しずつではありますが子ども等の成長を目の当たりにすることができるのが良い点でもあります。

初めての環境であり勤務体系も変則的であるため、慣れるまで四苦八苦しているところですが、とりあえず頑張りたいと思います。

「子どもの気持ちに寄り添うこと」

福祉専門員 西尾 静香

4月から大沼学園で勤務することになりました、西尾静香です。私はこれまで北見市で保育士として働いてきました。そのなかでたくさん子どもたち、保護者と出会い、様々な経験をさせてもらいました。公立の保育園ということもあり、入園している子のなかには大変な家庭環境で生活する子どもも多く、支援を必要としながらもその支援を受けられない方や、支援を受けることを拒否する方もいました。子どもたちと楽しく過ごしながらも葛藤する日々でした。

道職員の試験を受けるときに、直接子どもたちと関わりながら働くことを希望しました。大沼学園での勤務が決まり、2ヶ月がたちました。子どもたちと一緒に生活しながら働くことに毎日やりがいを感じています。ここで生活している子どもたちは、私には想像もできない経験をしている子どもが多くとても驚き、自分がすべきことは何かと悩む日々です。まずは子どもたちが学園で安心して生活できるよう、子どもたちの気持ちに寄り添いながら過ごし、私自身も成長していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

「新しい挑戦」

福祉指導員 柴田 侑汰

今年度より新規採用として大沼学園で勤務させていただくことになりました。柴田侑汰と申します。前職は介護士をしていました。

勤務を始めて一月ほどの時間が経ちました。初めてのことばかりで毎日がとても新鮮です。「自立支援」という点では介護も児童自立支援施設でも共通しています。しかし残存能力を活かす介護とは根本的な考え方は異なります。

私自身も児童たちと共に自分も大沼学園で学びながら成長していきたいと思っています。これからよろしくお願いいたします。

新任教諭の紹介（新しく鈴蘭谷分校に着任された先生）

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校 校長 大橋 宏朗

4月の人事異動で北斗市立浜分中学校から着任しました。本校に赴任し約3か月が過ぎ、鈴蘭谷分校での様子もずいぶん理解できるようになりました。子どもたちとは着任式・始業式で初めて対面し、その後授業参観や運動会等で頑張りが成長を見ることができ大変、頼もしく思います。また、大沼学園の先生方の教育にかける情熱も大いに感じられ、これからは鈴蘭谷分校と連携していただきながら、教育効果の向上につなげていきたいと思っています。

4月の異動で鈴蘭谷分校に着任し、分校や学園の職員のみなさんの子どもたちに向き合う姿に学ばされながら3ヶ月が過ぎました。まだまだわからないことが多くありますが、「人が育つということ」はどういうことか考えながら、おずおずと前に進もうとしている子どもたちと共にゆっくり歩きたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

昨年度行事報告

令和3年度 卒業生激励会

福祉専門員 渡部 準矢

雪溶けが始まり、春の足音も聞こえ始めた3月18日に実施しています。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら規模を縮小する形とはなりましたが、大変盛りだくさんな内容となりました。小学生2名、中学生3名の新たな門出を祝うために、今年も芝蘭寮がキレのあるダンス、蛍雪寮はクスツとなるお笑い、晩翠寮もコミカルな劇を披露してくれました。また、赤坂前園長や深山教頭、在校生からの激励の言葉や函館心の里親会様と函館市様、北海道新聞社様からの記念品贈呈などもあり、きっと卒業生達も新たな道へ進んでいくための励みになったのではないのでしょうか。



(各寮の本領を發揮する見せ場です!)

卒業生にとって、これまでの大沼学園の生活の中で良いことも悪いことも含め、様々な思い出や学びがあったと思います。

そして、誰しもがこれからの人生の中で何らかの壁に直面する場面はいくらでもあるでしょう。だからこそ、今年の卒業生それぞれが大沼学園に対してどのような思いを抱いているかはわかりませんが、ここでの生活で得たことをこれからの自身の糧にして、より邁進して行って欲しいと思います。来年度は新型コロナウイルスの情勢が落ち着き、元々の規模で卒業生達の新たな門出を祝うことができるように願うとともに卒業生達がそれぞれの道で活躍してくれることを祈っています。

令和3年度 卒業証書授与式

福祉指導員 鹿嶋 直人

3月22日、大沼学園では卒業証書授与式が行われました。幸いに天気にも恵まれ、無事卒業を迎えることができ、担当者として安心しています。

コロナ禍の中で在校生の合唱が中止になり、関係者の皆様にも出席をご遠慮いただくなど様々な影響を受けながらも、卒業生、在園生共に真剣に式に取り組んでいる姿が印象に残っています。卒業生の学園に入所した当初の不安げな顔とは全く違う、晴れ晴れとした表情を見て、子ども達の成長を感じるとともに、学園から巣立っていく子ども達へ一抹の寂しさを感じるとても良い式であったと思います。



(5名の門出を祝福しました)

祝辞を送っていただきました関係者の皆様、ご列席していただいた保護者・関係機関の皆様、事前準備、当日のご協力をいただきました職員の皆様におかれましては、お忙しい中本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

各寮紹介

芝蘭寮

寮長 斉藤 利昭

今年度の芝蘭寮は3名の生徒でのスタートで、4月中旬に新入生が1名入所しました。子どもにとっては、役割事や作業など一人一人に掛かる負担も大きいのですが、お互いに支え合いながら頑張って生活をしています。最近の子どもたちは、経験不足であることが顕著です。雑巾や竹箒など、日用品や作業道具を使うのが初めてという子どもがいます。一昔前であれば、使い方の説明をするまでもありませんでしたが、今は使い方を教えるところから始めないといけません。世の中が凄いスピードで進化をして、かなり便利な時代になりました。しかし、うちの寮は靴下や野球のユニフォームの下洗いは、固形石けんを使用して手洗いをします。靴下も穴が空くと、寮母が縫って修復します。一般的な家庭であれば、洗濯は洗濯機を使用し、靴下に穴が空けばゴミ箱に捨てて新品の靴下を履くでしょう。子どもにとっても職員にとっても面倒で大変なこともあります。が、「物を大切に作る心」を養います。「物」を大切にすることで、「人」も大切にできます。私は、日頃から子どもたちに「ここでは友達を作る必要は無い。でも、一緒に生活を支え合う仲間を大切にしてほしい」と伝え続けています。「人」を大切にすることで「自分」も大切にされます。周りから支えてもらえるような「人」になってほしいのです。うちの寮は古くさい考えの寮長寮母がいて、子どもたちもさぞ不便な思いをしていることでしょう。しかし、子どもたちは我々職員に対して優しく気遣ってくれたり、声を掛けたりしてくれます。今年度もお互いに支え合いながら、「人」として一緒に成長したいと考えております。

蛍雪寮

寮長 奥田 寛崇

児童3名でのスタートとなった今年の蛍雪寮は、児童以上にその周りの環境、職員の入れ替わりが目立ちました。昨年度末の退園生が1人もいないなかで、4月から5名の職員が新しく配置され、寮長の私自身もその中に含まれています。そんな大人も子どもも手探りで始まった新年度の寮生活は、蝉の音が聞こえ始めた今になって、ようやく軌道に乗り始めたところです。

さて、児童の立場になってみれば、彼らを取り囲む大人が、各々の生活に良くも悪くも大きな影響を与えることは明らかです。彼らは私たち大人から、良いも悪いもスポンジの様にあらゆることを吸収し、自分の姿を形作っていきます。たとえば些細なことですが、彼らは大人が好きなスポーツが好きです。大人が好きな食べ物も、大抵好きです。いつの間にか、話し方やグローブのお手入れまで、大人のやっているようにやり始めます。そうやって少しずつ大きくなっていく、未来の「大人」に、私たち職員が示すべきはどんな姿だろうか日々考えながら業務にあたっています。この1年の新しい出会いが、彼らにとって価値あるものとなるよう、職員一丸となって関わっていく所存です。

晩翠寮

寮長 山口 大輔

今年の晩翠寮は4名でのスタートでした。毎年そうですが、寮の4月は柱である上級生が退園し、生活を立て直すところから始まります。ルールを増やしたり、指導を厳しくしたりすることは（やるだけなら）簡単ですが、それで根本的に生活が良くなる訳でもなく、それでも生活の安定なしに課題や問題性の克服には至りません。忘れがちなのは、夫婦寮、交替寮、大舎、小舎に関わらず、そこが子ども達の日常生活の場であるという前提です。入所する子どものタイプや児童福祉を取り巻く環境が変化してきても、今も昔も児童自立支援施設に求められているのは、擬似的であっても「家庭的な環境」であることが第一。もちろん、子ども達は入所にあって課題を抱え、本来の家族ではないメンバーで生活する以上、ルールや指導の厳格さは必要です。しかし、根っこには職員の仕事のしやすさや管理のしやすさではなく、子どもの将来を見据え、成長を促すことを考えた「子どもファースト」の考え方が大切だと考えています。学園勤務は通算9年になりますが、寮長としては2年目、まだまだ不慣れで至らない点も多いですが、このことを常に意識して関わっていきたいと思います。

新年度行事報告

今年度の湖畔第1号では、6月に実施された運動会・登山遠足・東北北海道地区少年野球大会の3行事について、それぞれ担当職員のコメントを付し、各寮の児童らが丹精込めて書いた作文を写真とともに掲載します。

運動会

児童自立支援専門員 中田 太一

昨年は悪天候のため体育館での実施となりましたが、今年は念願の晴れ、3年ぶりに外で実施することができました。また、新型コロナウイルスの影響で保護者や来賓の方々の来園を昨年は控えて頂きましたが、今年は検討の末保護者のみに来園して頂きました。保護者が来園した子どもについては昼食後に面談の場を設けました。新型コロナウイルスの影響で会食までは叶いませんでしたが、面談中に感極まって号泣する子どももあり、保護者との再会が学園生活を頑張るモチベーションとなるなど有意義な時間となりました。

本番は練習通り張り切って競技に取り組んでくれました。保護者が見ているということもあり、いつもより声の張りが良かったように思えました。また、今年は競技を一新し、借り人競争では仮面ライダーやキティちゃんなどのキャラクターのコスプレをした職員が場を盛り上げてくれました。このことについては、子どもには知らせていなかったのととても喜んでいました。

新型コロナウイルスの影響で思うような行事運営が難しくなっておりますが、いつの日か今まで通りの催し事ができることを切に願っております。



(紅白の代表者による力強い選手宣誓でした！)



自分は、大沼学園に来て初めての運動会で何をするのか、しっかり出来るかなどといろいろな不安の種が尽きませんでした。その中で、今までやったことのない種目が何種類か出て、楽しみなのと、不安なのが混じったような感じになっていました。それらの種目は実際にやったら、結構楽しかったです。それから応援合戦では、自分も大きな声を出すことがあって、とても楽しかったです。

中3 ユキト君

(籠に目がけて、玉に思いを乗せています！接戦でした！)

僕は、大沼学園に来て初めてやりました。僕の担当だった所は、リレーです。僕は、小さい頃からリレーが得意でした。白チームに勝てるようなバランスを考えてみんなの配置をしました。練習では、リレーだけではなく綱引きや長縄跳びとかもうまくいっていたけれど、玉入れだけは僕たち赤チームが苦手だった競技です。だけど、頑張って練習をしました。本番の応援では、滑舌よく大きな声でしゃべれました。綱引きも長縄跳びもリレーも、パン食い競争でも、全部頑張れました。ちょっと悔しかったのは、玉入れです。やっぱり負けてしまったけれど、みんなが力を合わせてできたので良かったです。小学生最後の運動会は、勝ったし楽しくみんなで力を合わせる事ができたので嬉しかったです。

小6 ユウ君

自分は副キャプテンで、キャプテンではなかったけどチームの皆をキャプテンと一緒に引っ張っていったので良かったです。

自分は、運動会で楽しかったのは玉入れです。玉入れは練習で作戦を立て、本番では一対一の接戦になったけど、自分のチームが勝てたので嬉しかったです。綱引きは、負けてしまったけど、自分なりに全力を出し切れたので良かったです。最後の全員リレーは綱引きと同じで負けてしまったけど、チームの皆が全力を出し切

れたし良かったです。

今回の運動会は、皆全力を出し切り、良い感じで終われたので良かったです。

中3 ダイスケ君



(歯を食いしばり、ゴールまで全力で駆け抜けました！)



(今年は紅組の勝利でした。両チーム見事な戦いぶりでした！)

登山遠足

児童自立支援専門員 中山 雄太



令和4年度登山遠足は、6月10日に駒ヶ岳に登りました。今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス対策を考え、対応を検討してきました。

当日は天気が良く気温も高く、急勾配な斜面や足場が悪く子どもも職員も苦戦していましたが、登山途中や頂上での景色はとても綺麗で気持ちが良いものでした。子どもたちは注意されることや揉めることもなく終始笑顔で楽しんでおり、とても楽しい登山遠足となりました。

(秀峰駒ヶ岳の頂上を背景に、馬の背にて)

僕は、人生で初めて登山遠足をしました。思っていたよりも長く、少し歩くとすぐ疲れてしまいました。大変な思いをして登る登山はものすごく楽しかったですし、気持ちも良かったです。何も怪我をせずに最後まで終えられたのは、自分の中では素晴らしいことだと思います。ぜひまた登山をしてみたいです。登っている途中には何回か休みがあり、そのときに見た大沼湖や小沼湖はすごく綺麗で見られて良かったと思います。でも、いざ歩き出すとまた疲れや足の痛みが出てきたり砂や石が多くあり、転びそうになったりと大変でした。山頂の近くまで来ると雲が近くまであり初めて見たので、すごく良い経験が出来ました。下りる時も砂や石で何回も滑ってしまって危なかったのですが、最後まで怪我をせずに帰ってこられて良かったです。

中3 ミヤビ君

自分は、登山をして良い経験をしたと思います。理由は、大きく二つあります。

一つ目は、こんな経験をする事があまりないからです。自分は、二回も登山をしたから楽しいと思いました。一回目は、函館山で、二回目は、駒ヶ岳に登りました。もしもここに来ていなかったら登山に無縁だったと思います。なので、良い経験だと思いました。

二つ目は、仲間と協力が出来たところです。それは、今回自分より年下の方がリーダーをやりました。登山をしていてその人のおかげで登山がスムーズにきました。それは仲間を思い合う言葉があったからです。この登山で仲間を思い合う力を学びました。周りにとっては当たり前ですが、自分にはすごく必要だと思いました。良い経験になりました。

中3 アツキ君

僕は、登山を初めて経験しました。今回の登山で、初めてだったから、駒ヶ岳だったから、理由などないかもしれませんが、学んだ事はとても多かったと思います。

まず一つ目は、相手への思いやりです。相手を思いやりながら登山をする、生活をする、日頃の生活にも当てはまると、思います。

次に二つ目は、自然の大切さです。山頂で見た景色は、とてもきれいで、自然の大切な理由が分かったと思います。

良い経験ができたと思います。楽しかったです。

中1 ソラ君



(登山道は荒々しく急勾配で、皆で声を掛け合います！)



(ようやく下山して、皆でお疲れ様のランチタイム)

東北・北海道地区少年野球大会

児童自立支援専門員 成田 健悟

令和4年6月29日、宮城県仙台市にて第73回東北・北海道地区少年野球大会宮城大会が開催されました。児童、職員ともに試合に対する緊張、30度を超える猛暑のなか、地区大会に臨みました。

初戦は、福島県立福島学園。福島学園の鍛えられた攻撃により得点を許しますが、こちらも長打を絡めた攻撃により乱打戦となりました。試合は6対6のまま延長戦に突入。延長戦はタイブレークにより無死満塁からのスタート。タイブレークは後攻が有利（先攻の得点を踏まえて攻撃の作戦を立てられる）であり先攻の大沼学園は不利な状況。そのため長打狙いのヒッティングで大量得点を奪う作戦で行くことを児童達に伝えました。結果4番打者、6番打者の長打等により5点の得点を奪うことに成功。裏の守備を2点で抑え、11対8で勝利することが出来ました。決勝戦は宮城県立さわらび学園との対戦。さわらび学園の素晴らしいバッテリー、鍛えられた守備、積極的な攻



勝戦は宮城県立さわらび学園との対戦。さわらび学園の素晴らしいバッテリー、鍛えられた守備、積極的な攻

撃、絶えることのない声に終始圧倒され3対19で敗戦。3年ぶりの地区大会は準優勝という結果で終わりました。

大会後、はるばる宮城まで応援に駆けつけてくれた前園長より「価値ある1勝」という言葉を貰いました。2年間大会が中止となるなか、学園で野球を続けてきた意味、とにかく勝ちに拘って今まで練習してきた意味など、私達にとっては、今までの頑張りが報われる。そしてこれからの頑張りに繋がられる価値のある1勝であったと感じられます。

地区大会の参加に伴い、地域の皆様、関係者の皆様、学園OBの皆様などにたくさんの支援、応援をいただきました。大沼学園野球部を代表してお礼を申し上げます。また9月には、大沼地区少年野球大会の開催が予定されております。ぜひ大沼学園に足を運び、全国一綺麗に整備されたグラウンド、一生懸命に白球を追いかける児童をご覧になっていただけたら幸いです。



僕は、東北北海道大会を終えて学んだことが色々あります。

まず一つ目は、声出しです。理由は、福島学園の人たちはずっと声を出していて、士気が上がり流れを作っている感じが出ていて、強いチームだと思われました。

二つ目は、盗塁です。理由は、ピッチャーが投げた瞬間やキャッチャーがボールを後ろに逸らした時、ピッチャーがキャッチャーからボールをもらい目を離れた隙などに盗塁され、気づいたら一塁から二塁、三塁といかれ、どんどん点を入れられました。

結果は、福島のチームにはなんとか勝つことが出来ました。決勝のさわらび学園には大差をつけられて負けてしまいましたが、準優勝という結果だったので良かったです。 中3 フウマ君

6月28日に、大沼学園で出発式をやりました。北海道の気温は20℃くらいで雨が降っていました。昼食の時に菓子パンを食べました。美味しかったです。初めて新幹線に乗って楽しかったです。仙台に着いたときは蒸し暑かったです。宿泊先に着いたときやっと着いたと思いました。夕食はご飯と味噌汁と刺身とエビフライとサラダとグラタンとステーキが出ました。僕が一番美味しかったのは刺身です。入浴の時の、馬油のシャンプーがすごく良いにおいでした。就寝をしました。

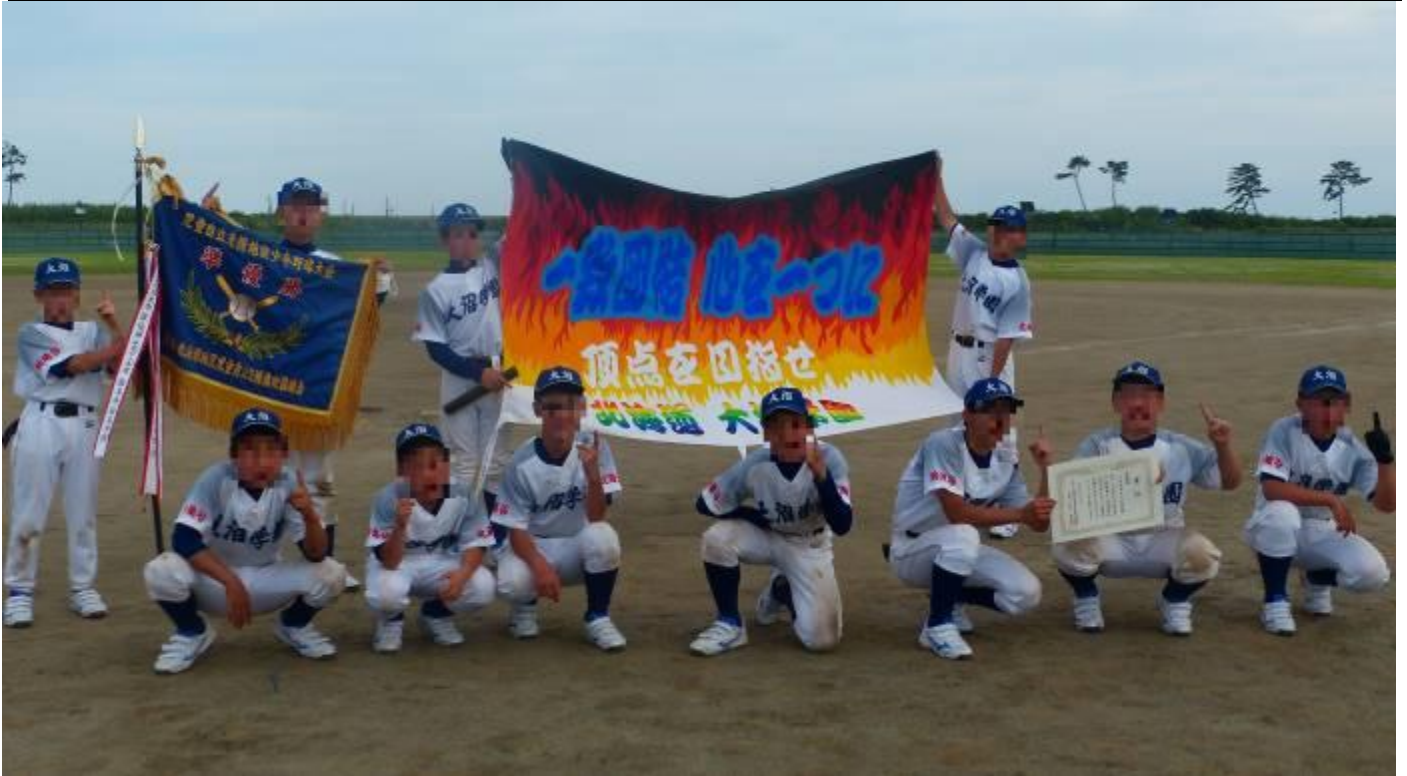
6月29日、第一試合目は福島学園と戦いました。結果は12対8で勝ちました。だけど、延長まで行きました。とても緊張しました。第二試合目は、さわらび学園と戦いました。結果は、19対3で負けてしまいましたが、最後まで諦めないでやれたので良かったです。 中2 キョウスケ君

6月28日、大沼学園で出発式をやりました。学園から先生方に送ってもらったとき、ワクワクの反面、緊張もありました。新幹線に乗ったときと仙台に降りたときの気温が全く違い、景色も乗っているにつれて晴れてきました。人混みも多く少し混乱していましたが、駅を出たら人も少しずつ減り、建物も少なくなっていました。その後、ホテルに着きご飯を食べ、風呂に入り、ゆっくり過ごしました。

6月29日、天気は晴れ、気温も高く、野球の試合がしたくて朝はずっとウズウズしていました。初めは福島学園との対戦で、緊張が強かったと思います。シートノックではエラーがあったものの、試合に入ると少しずつ声を掛け合い、緊張はほぐれ、プレーに集中できました。そして初回、先攻は大沼学園で、3点を入れてリードしていました。僕は、3塁ライナーのツーベースヒットで出塁しました。そのあと、福島の攻撃で5点を入れられ、逆転されてしまいました。2回表では、無得点で大沼の攻撃は終わり、福島の攻撃で1点追加され6対3で負けていました。ですが、3回表で大沼が3点追加し、同点になりました。僕はショートゴロを打ち、ショートのエラーで出塁していました。そして時間の関係で福島が1点でも入れれば、サヨナラ負けという状態になりました。ですが、チーム全体の勝ちたいという気持ちがあり、この福島の攻撃は0点に抑えることができました。同点ということで、特別延長戦をやることになり、全員が全力で戦い5点を追加しました。僕はワンバウンドで柵を越え、ツーベースヒットを打ちました。その後も攻撃は続き、5点を入れられました。そして最後、福島の攻撃でピッチャーや野手が全身全霊で守り切り、2点で抑え、11対8で大沼学園が勝利しました。つづく決勝戦は、さわらび学園との戦いでした。相手ピッチャーの球は伸び、球が速かったです。先攻はさわらびで何本か外野に飛び、デッドボールやエラーが続き、初回で何点か入れられ、やっとの思いで大沼の攻撃をすることができました。でも、ピッチャーの球がすごく、打つことが出来ず、無得点のまま続けました。さわらびは得点を入れて19対0で、最後の大沼の攻撃で皆諦めず、最後に3点を入れましたが、1

9対3で大沼の負けでした。結果は準優勝となりましたが、実力の差を感じ、反省点も見つかり、とても良い経験になりました。

6月30日、疲れを感じつつも、仙台駅で買い物をしました。ずんだシェイクはとても美味しかったです。新幹線に乗り、牛タン弁当を食べ、新函館北斗駅に着きました。やはり仙台と函館の気温は違い、少し寒く感じました。車内で仙台の出来事を話しながら学園に向かい、見慣れた景色を見て、少し安心しました。そして、楽しく、とても良い経験のできた3日間でした。ありがとうございました。 中2 リクト君



学 園 の 動 向

令和4年3月～6月

3月

- 1日 公立高校受験のため3名許可外泊
- 2日 運営会議
- 3日 太陽の園・ひまわり学園へ施設見学
引率：内田自立支援課長・中田児童自立支援専門員
- 7日 運営会議
- 9日 職員会議
- 10日 支援会議
- 11日 避難訓練
- 15日 函館児相・城米児童福祉司 面接調査のため来園
- 16日 医診 給食会議
- 18日 卒業生激励会
- 20日 理髪
- 22日 卒業証書授与式
- 24日 修了式 離任式
(分校教職員4名 当園職員8名)
- 26日 旭川児相 岡村児童福祉司児童移送のため来所
- 28日 買い物訓練
- 31日 4月1日付け退職および異動辞令交付

(3月 入所 1名 退所 4名)

4月

- 1日 浦本主査、筑間専門主任、岡田専門主任 西尾福祉専門員、柴田福祉指導員 西田児童自立支援員(非常勤)着任
(以上学園)
大橋校長、藤澤教諭 田中事務職員着任
(以上分校)
- 4日 岩見沢児相 富樫児童福祉司 鈴木児童福祉司児童移送・面接調査のため来園
- 5日 杉本自立支援課長 着任
- 6日 中央児相 上田主任児童福祉司 白石児童福祉司 面接調査のため来園
- 7日 始業式・着任式
志摩庶務係長 島田福祉専門員 着任
運営会議
- 11日 児童・生徒委員会任命式
- 13日 職員会議・給食会議
- 15日 室蘭児相・苫小牧分室 南児童福祉司 田中児童福祉司 青山判定援助係長 児童移送のため来園
- 18日 内科検診 支援会議
- 20日 医診
- 24日 湖畔清掃・大沼公園駅前花壇整備
- 25日 函館児相 浜子ども支援課長 鈴木児童福祉司 黒須判定員 児童移送のため来園

- 26日 函館児相 小林児童福祉司 面接調査のため来園
 - 27日 避難訓練
 - 29日 各寮園外活動(サイクリング・公園散策)
- (4月 入所 3名 退所 0名)

5月

- 1日 各寮園外活動(温泉入浴) 理髪
 - 2日 振り替え休校(4月24日)
 - 3日 各寮園外活動(釣り・公園散策)
 - 5日 各寮園外活動(温泉入浴)
 - 9日 心電図検診(中1)
 - 11日 環境整備活動 運営会議
 - 12日 職員会議
 - 16日 内科検診 支援会議
 - 17日 眼科検診
室蘭児相 鍵谷児童福祉司 面接調査のため来園
 - 18日 医診 給食会議
 - 19日 耳鼻科検診
 - 21日 運動会
 - 23日 振替休校(5月21日)
各寮園外活動(買い物訓練)
函館児相 小林児童福祉司 面接調査のため来園
 - 26日 函館地方裁判所司法修習生 施設見学 岩見沢児相 富樫児童福祉司 斉藤判定援助係長 心理判定および面接調査等のため来園
- (5月 入所 0名 退所 0名)

6月

- 1日 園外活動
(森町民球場・パークゴルフ場)
- 5日 授業参観
- 7日 社会科見学(小6)
- 8日 運営会議
- 9日 職員会議
函館市要対協ケース会議出席
浦本主査 渡部福祉専門員
- 10日 駒ヶ岳登山遠足
- 12日 理髪
- 13日 避難訓練
帯広児相 石川児童福祉司 馬場判定員 面接調査のため来園
- 15日 医診 支援会議 給食会議
- 16日 大沼公園駅前花壇整備
- 20日 内科検診
- 22日 ブラッシング指導(鍋谷歯科)
- 23日 期末テスト(~24日)
- 28日 東北・北海道野球大会(宮城県)
(~30日)

(6月 入所 0名 退所 0名)

お世話になりました

退職

(令和4年3月31日付)

熊澤 美雪

高橋 和希

松山 一也

異動

(令和4年4月1日付)

赤坂 秀彦 北海道立向陽学院

渡辺伸哉 根室振興局

多田 将士 北海道中央児童相談所

筑間 久枝 旭川児童相談所

伊藤 凌 宗谷総合振興局

ご寄付食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(3月1日～6月30日)

七飯更生保護女性会 様

財津自工 様

大沼町内会 様

財津自工 様

美ヶ丘敬楽荘 様

駒ヶ岳レストラン ケルン 様

宮村内科医院 様

茂辺地中学校 様

谷川小学校 様

函太郎 様

澄マサノ 様

佐藤 様(八雲町) 東海林学 様 (順不同)

編集後記

昨年度の3月、この大沼学園から中学生3名が道内各地へ巣立っていきました。少し大きくなった背中を見届けた記憶は、未だ鮮明です。そして新年度を向かえ、新芽が芽吹く頃、子どもたちが進級とともに、気を引き締めた表情とやや背伸びをした姿を見せてくれた瞬間には、つい頬が緩んでしまいました。

今年度は、全国的な新型コロナウイルスの感染が再拡大する中で、感染対策を継続しつつ学園では恒例行事が催されています。また、子どもたちが自分の持てる力を試し、存分に発揮する機会に恵まれているように思います。その機会を、単に殴り書きされた一ページにせず、子どもたち一人ひとりの生にとって“筆圧濃く”書かれたページにすべく、我々職員も常日頃から試されているように感じます。引き続き子どもたちと日常を共にしながら、主著はあくまで本人ですが、一人ひとりの物語を一緒に編んでいく所存です。

第一号をご高覧いただき、有り難うございました。

児童自立支援専門員 佐藤 淳哉

